

Asia Indicators

発表日: 2024年10月4日(金)

オーストラリア、減税と補助金で家計消費底入れ(Asia Weekly(9/30~10/4))

~韓国、インドネシア、フィリピンでインフレは一段の鈍化を確認~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

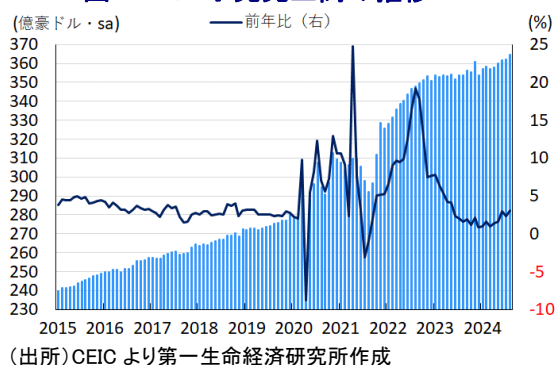
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/30(月)	(韓国)8月鉱工業生産(前年比)	+3.8%	+1.9%	+5.2%
	(中国)9月製造業PMI	49.8	49.5	49.1
	9月非製造業PMI	50.0	--	50.3
	9月財新製造業PMI	49.3	50.5	50.4
10/1(火)	(韓国)9月輸出(前年比)	+7.5%	+6.5%	+11.2%
	9月輸入(前年比)	+2.2%	+3.0%	+6.0%
	(オーストラリア)8月小売売上高(前月比・季調済)	+0.7%	+0.4%	+0.1%
	(インドネシア)9月消費者物価(前年比)	+1.84%	+2.00%	+2.12%
10/2(水)	(韓国)9月消費者物価(前年比)	+1.6%	+1.9%	+2.0%
10/3(木)	(香港)8月小売売上高(前年比・数量ベース)	▲11.8%	--	▲13.2%
10/4(金)	(フィリピン)9月消費者物価(前年比)	+1.9%	+2.5%	+3.3%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[オーストラリア]~所得税減税やエネルギー補助金の効果を受けて家計消費に幅広く底入れの動きを確認~

1日に発表された8月の小売売上高(季節調整値)は前月比+0.7%と5ヶ月連続で拡大しており、前月(同+0.1%)からペースも加速しているほか、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。財別では、家庭用品関連の需要は弱含む動きがみられる一方、衣料品をはじめとする日用品のほか、食料品や高額品など幅広い財で需要が底打ちする動きがみられるほか、外食関連の需要も底入れの動きを強めるなど全般的に堅調な動きをみせている。地域別でも、すべての州で前月比の拡大ペースが加速する動きが確認されるなど、全体的に家計消費の底入れの動きが進んでいる。7月から実施されている所得税減税やエネルギー補助金の影響でエネルギー価格に大きく下押し圧力が掛かっていることも重なり、実質所得がプラスに転じており、力強さを欠く推移が続いた家計消費が喚起されている様子がうかがえる。

図1 AU 小売売上高の推移



[韓国]～輸出入は一進一退も底堅い動きをみせる一方、インフレは一段と鈍化して中銀目標を下回る水準に～

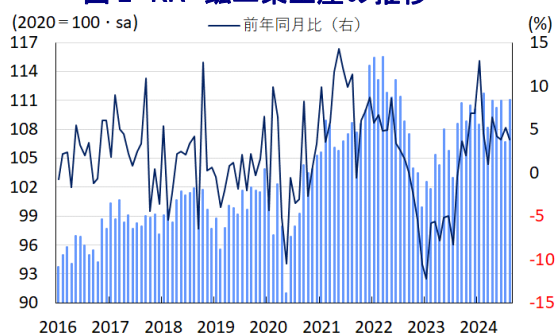
30日に発表された8月の鉱工業生産は前年同月比+3.8%となり、前月(同+5.2%)から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+4.12%と前月(同▲3.87%)に自動車メーカーでのストの影響で大きく下押し圧力が掛かった反動で2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きが確認されている。財別では、スト終結の動きを反映して自動車関連の生産が大きく上振れする動きがみられるほか、こうした動きを反映して金属関連の生産も拡大するなど関連産業の生産が押し上げられている。さらに、主力の輸出財である半導体など電子部品関連の生産も堅調な推移をみせている一方、食料品や縫製品をはじめとする軽工業関連の生産に下押し圧力が掛かる動きもみられるなど、分野ごとの跛行色が鮮明になっている様子がうかがえる。

1日に発表された9月の輸出額は前年同月比+7.5%となり、前月(同+11.2%)から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も3ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きに一般感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。財別dでは、主力の輸出財である半導体は引き続き堅調な推移をみせているほか、携帯通信機器も同様に堅調な動きをみせる一方、自動車関連や家電製品関連などで伸びが鈍化するなど対照的な動きがみられる。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けに底堅い動きがみられるほか、米国向けにも同様に底堅い動きが見られる一方、EU向けや日本向けのほか、中南米諸国向けなどで軒並み鈍化する動きが確認されている。一方の輸入額は前年同月比+2.2%となり、前月(同+6.0%)から伸びが鈍化している。前月比も3ヶ月ぶりの減少に転じるなど輸出同様に底入れの動きに一般感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。輸出が一進一退の動きをみせるなかで素材や部材などに対する需要に下押し圧力が掛かるとともに、商品市況の調整の動きも輸入額の重石になっているほか、内需の弱さも足かせになっている。結果、貿易収支は+66.58億ドルと前月(+37.70億ドル)から黒字幅は拡大している。

2日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+1.6%となり、前月(同+2.0%)から鈍化して2021年2月以来の伸びとなるとともに、中銀目標(2%)を下回る水準となっている。前月比も+0.10%と前月(同+0.36%)から上昇ペースが鈍化しており、電力をはじめとするエネルギー価格に大きく押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、穀物や生鮮品などを中心に食料品価格も上昇の動きが続くなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる動きがみられる。ただし、食料品とエネルギーを除いたコア

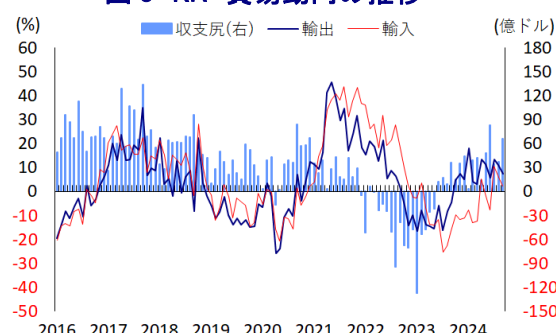
インフレ率は前年同月比+2.0%と前月（同+2.1%）からわずかに伸びが鈍化しており、2021年10月以来となる中銀目標に収束している。前月比も▲0.20%と前月（同+0.12%）から丸1年ぶりの下落に転じており、国際原油価格の調整の動きを受けた燃料価格の下振れを反映して輸送コストに下押し圧力が掛かるとともに、国際金融市場における米ドル安を受けた通貨ウォン高による輸入インフレの後退も重なり幅広い財価格に下押し圧力が掛かりやすい展開となっているほか、幅広くサービス物価にも下押し圧力が掛かる動きがみられるなど、全般的にインフレ圧力が後退している様子がうかがえる。

図2 KR 鉱工業生産の推移



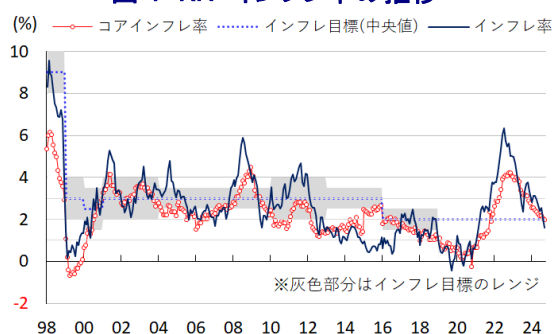
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 KR 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 KR インフレ率の推移

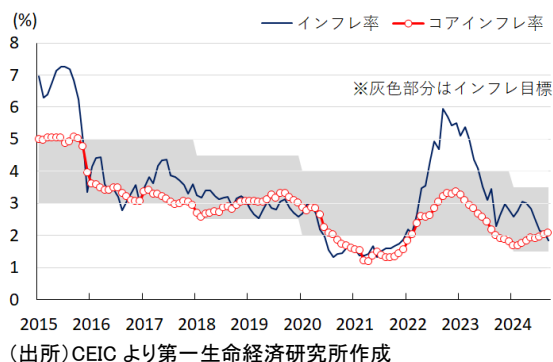


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[インドネシア]～生活必需品を中心とする物価下落でインフレ率は一層鈍化も、コアインフレは緩やかに底入れ～

1日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+1.84%となり、前月（同+2.12%）から鈍化して2021年11月以来の伸びとなっている。前月比も▲0.12%と5ヶ月連続で下落しているほか、前月（同▲0.03%）からそのペースも加速するなど、足下の物価は頭打ちの動きを強めている。生鮮品をはじめとする食料品価格の下落が続いているほか、このところの国際原油価格の調整の動きを反映してエネルギー価格も下落するなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.09%と前月（同+2.02%）からわずかに伸びが加速しており、6月以降緩やかに底入れの動きが続いている。前月比も+0.16%と前月（同+0.20%）からペースこそ鈍化するも上昇が続いており、エネルギー価格の下落を反映して輸送コストに下押し圧力が掛かるとともに、国際金融市場における米ドル安を受けた通貨ルピア高により輸入インフレ圧力が後退していることも重なり、幅広く財価格は落ち着いた動きをみせる一方、サービス物価に上昇圧力がくすぶるなど物価を巡る動きはまちまちの様相をみせている。

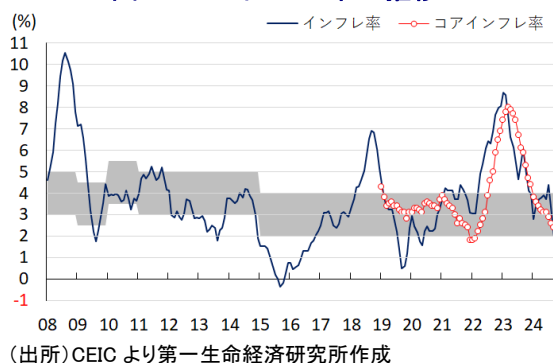
図5 ID インフレ率の推移



[フィリピン]～生活必需品を中心とする物価下落に加え、全般的にインフレ圧力後退の動きがうかがえる～

4日に発表された9月の消費者物価は前年同月比+1.9%となり、前月(同+3.3%)から鈍化して2020年5月以来の伸びとなるとともに、中銀目標(2～4%)の下限をも下回る水準となっている。前月比も▲0.24%と前月(同+0.08%)から5ヶ月ぶりの下落に転じており、関税引き下げの影響でコメ価格に下押し圧力が掛かるとともに、穀物や生鮮食料品などを中心に食料品価格が幅広く下落しているほか、このところの国際原油価格の調整の動きを反映してエネルギー価格の上昇ペースも鈍化するなど、生活必需品で物価上昇圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.4%と前月(同+2.6%)から伸びが鈍化している。前月比は+0.08%と前月(同+0.08%)から同じペースでの上昇が続いているものの、落ち着いた推移が続いており、エネルギー価格が落ち着いた推移をみせていることを反映して輸送コストに下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、国際金融市場における米ドル安を反映して通貨ペソ高を受けて輸入インフレ圧力が後退しており、幅広く財価格は落ち着いた推移をみせているほか、サービス物価も落ち着いた動きをみせるなどインフレ圧力が後退している様子がうかがえる。

図6 PH インフレ率の推移

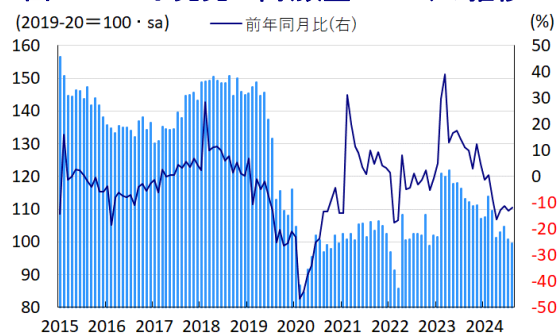


[香港]～食料品への需要は底堅いが、日用品や耐久消費財など幅広い財で需要に下押し圧力が掛かる展開～

3日に発表された8月の小売売上高(数量ベース)は前年同月比▲11.8%と6ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月(同▲13.2%)からマイナス幅は縮小している。前月比も▲1.29%と前月(同▲3.54%)から2ヶ月連続で減少しているほか、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。食料品など生活必需品に対する需要は底堅い動きをみせているものの、衣類

をはじめとする日用品に対する需要が下振れしているほか、自動車や家具をはじめとする耐久消費財に対する需要も力強さを欠く推移が続いており、中国本土景気を巡る不透明感に加え、雇用を取り巻く環境が厳しさを増していることも家計消費の足かせとなっている。

図7 HK 小売売上高(数量ベース)の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。